

令和元年度 秋季企画展

# 大和川つけかえと なか じ ん べ え 中甚兵衛

甚兵衛とつけかえとの関わりを考える

## 館長と学ぶ大和川講座

9月28日(土) 『大和川つけかえと中甚兵衛』  
10月26日(土) 『付け替え後の維持管理』  
11月23日(土) 『国分村と洪水との戦い』

講師：安村俊史（柏原市立歴史資料館 館長）  
13:30～15:00  
歴史資料館3階 研修室  
定員：70名  
参加費無料・申込不要  
当日13時より受付

## 史跡 高井田横穴特別公開

10月19日(土)  
10:00～15:00  
学芸員によるガイドツアー  
10:00/11:00/13:00/14:00  
定員：各回20名  
参加費無料・申込不要

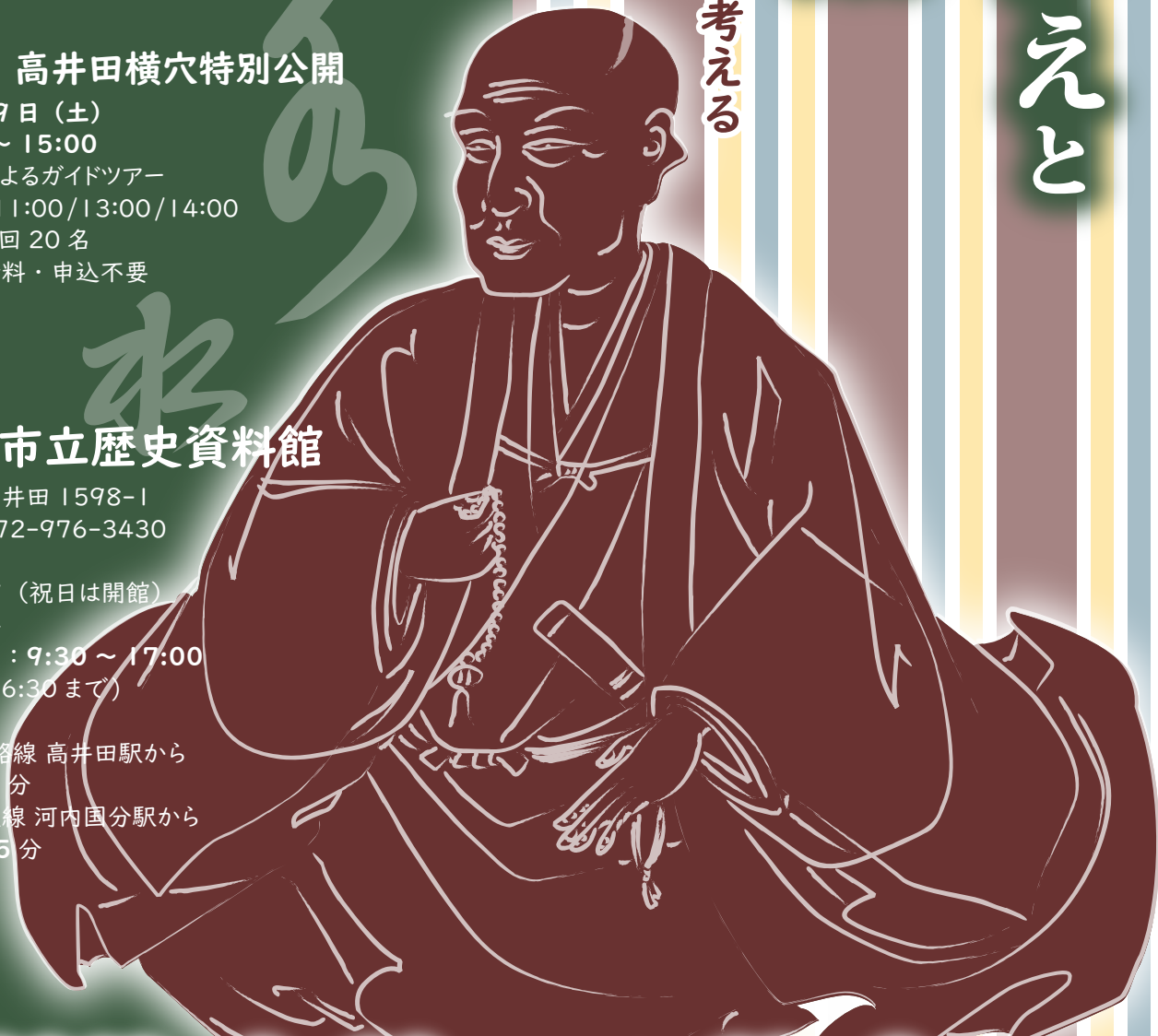
## 柏原市立歴史資料館

柏原市高井田1598-1  
電話：072-976-3430

月曜休館（祝日は開館）  
入館無料  
開館時間：9:30～17:00  
（入館は16:30まで）

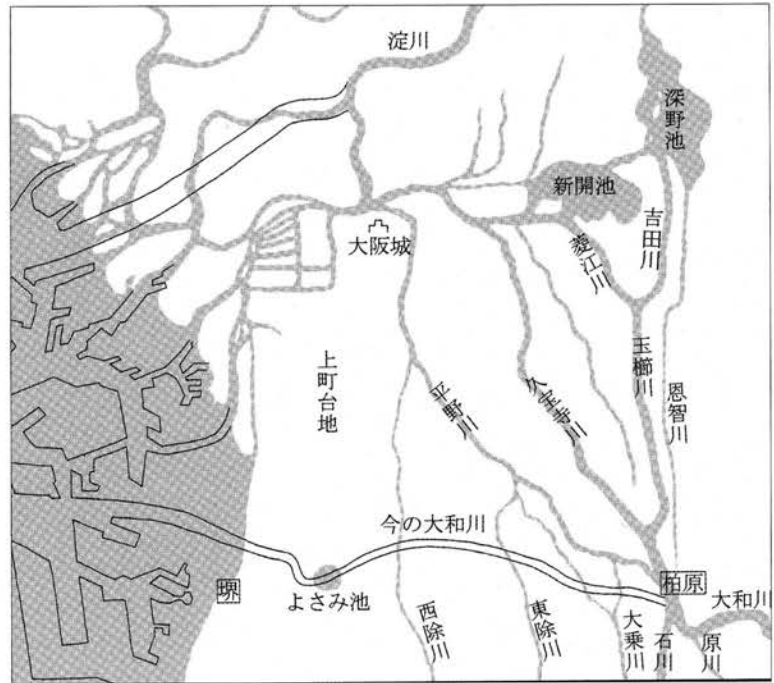
JR 大和路線 高井田駅から  
徒歩約5分  
近鉄大阪線 河内国分駅から  
徒歩約15分

2019年9月10日[火] ▶ 12月8日[日]



おおさかへいや こうずい  
大阪平野になんども洪水をおこし  
やまどがわ  
ていた大和川は、今から300年ほど前  
につけかえられることになりました。  
300年前の人たちにとって、川を  
つけかえるというのは、たいへんな  
ことでした。大和川のつけかえ工事は、  
どのようにして行われたので  
しょう。

そして、つけかえを願う運動の中  
しんじんぶつ うんどう ちゅう  
心人物であった中甚兵衛が、つけか  
え運動とどのように関わったので  
しょう。残された史料から考えてみ  
たいと思います。



つけかえ前の大和川

### つけかえ前の大和川

やまどがわ きゅうほうじがわ ながせがわ たまくしがわ たまくしがわ ひらのがわ  
つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流  
れ、大阪城の北でもとの淀川（大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな平野を流  
れているため、大雨が降るとすぐに洪水をおこしてしましました。

やがて、洪水に苦しむ人たちから大和川をつけかえてほしいという願いが出されるようにな  
りました。そこで、幕府（国）はつけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつもつ  
けかえは必要ないという結論が出ていました。つけかえにたくさんのお金があること、工事を  
するのがむずかしいことだけでなく、つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも大きな  
理由のひとつだと考えられます。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したの  
です。そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

じょうきょう ぶんしやう ばくふ  
貞享4年（1687）にも、つけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、つけかえはし  
ないというきびしい答えがかえってきたようです。それから、つけかえをお願いする文章が出  
されることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいという願  
いになります。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

### つけかえ工事の決定

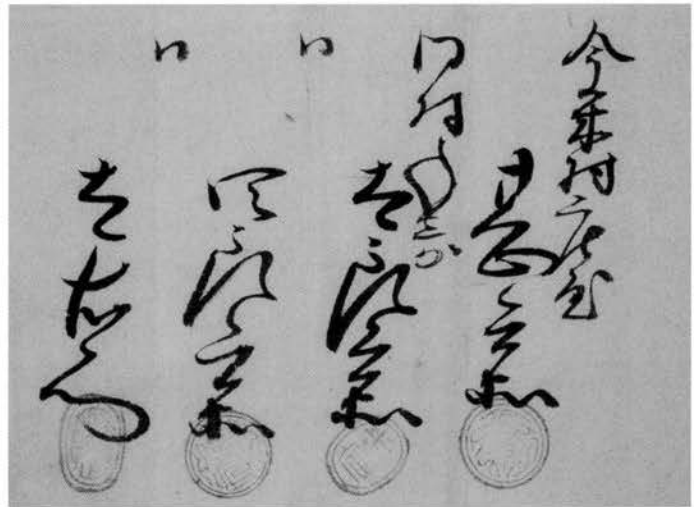
それから10年以上、みんながつけかえをすっかりあきらめたところに、幕府は急につけかえる  
ことを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入って  
くる方法があるとわかったからです。つけかえ工事で幕府が使ったお金は、もとの川に田畑をつ  
くるためにはらわれたお金で、ほとんどもどってきました。そのうえ新しくできた田畑から  
は、年貢（税金）がたくさん入ってくるようになるのです。

## つけかえ運動と中甚兵衛

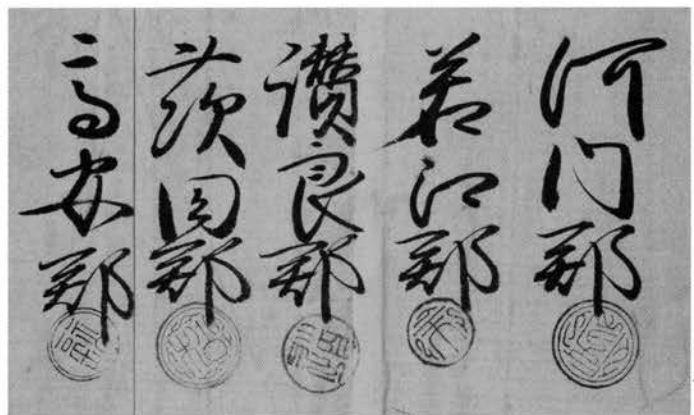
記録では、大和川のつけかえを求める運動は万治2年（1659）ごろから始まったようです。中甚兵衛はお父さんが亡くなった次の年、明暦3年（1657）に江戸へ行ってしまい、16年間も江戸でくらしていました。つけかえ運動が始まったのは、甚兵衛が江戸へ行ったあとのようです。甚兵衛が江戸で何をしていたのかわかりません。つけかえのお願いをしていたと考える人もいますが、一人ではできないので、江戸に長くくらすことと関係なかったと考えられます。たしかなのは、甚兵衛が江戸で200両（今の4千万円ほど）のお金をためて村に帰ってきたことだけです。

また、甚兵衛の残した史料は貞享4年（1687）よりもあとのものばかりなので、甚兵衛がつけかえ運動の中心となったのは貞享4年ごろからだったと考えたほうがいいでしょう。しかし、すぐにつけかえはあきらめ、洪水を少なくする工事をしてくださいというお願いに変わっています。そして、運動に参加する人たちはどんどん減っていき、甚兵衛に協力してくれる人は少なくなっていたようです。

貞享4年（1687）8月に出されたお願いの文章の茨田郡のところに甚兵衛の印が押されています。甚兵衛は茨田郡の人ではありません。どうやら、まわりの村々が協力してくれないので、甚兵衛たちは勝手に印を押してお願いの文章を出していたようです。



「春日流社」



貞享4年4月の嘆願書



貞享4年8月の嘆願書

写真上の右はしが甚兵衛の名と印。写真中の右はしが河内郡と甚兵衛の印。写真下の4番目が茨田郡と甚兵衛の印。

写真上の最後が太右衛門の名と印で、写真下の右はしの河内郡に太右衛門の印が押されている。



中甚兵衛の着た陣羽織



中甚兵衛の肖像画

## 中甚兵衛

なかじんべえ かんえい かわちのくにかわちぐんいまごめむら ひがしおおさかしいまごめ  
 中甚兵衛は、寛永16年（1639）に河内国河内郡今米村（今の東大阪市今米1丁目）に生ま  
 れました。めいれき 2年（1656）にお父さんが亡くなり、その次の年に江戸へ行き、かんぶん  
 2年（1672）に村に帰り、その次の年に結婚しています。じんべえ には太郎兵衛というお兄さんがい  
 たことがわかっていますが、お兄さんのことはほとんどわかりません。げんろく  
 6年（1693）よりも前に今米村のしょうや 庄屋（村をおさめる人）になっていたことがわかっています。

つけかえ運動のちゆうしんじんぶつ 中心人物となったのは、じょうきやう 貞享4年（1687）ごろのようです。そしてつけかえ  
 が決まったげんろく 16年（1703）には、なんども幕府に呼び出され、つけかえ工事に対する考え  
 を聞かれていたようです。そのため、ひやくしょう 百姓でありながら息子の子のくへえ 九兵衛とともに、つけかえ工事  
 にもさんか 参加しています。工事のとき、おおくぼじんべえ 大久保甚兵衛という役人がいたため、じんべえ 甚兵衛は遠慮して甚  
 助という名前に変えています。しんでんかいほつ つけかえ後は新田開発なども行いましたが、まもなく九兵衛に  
 しごと 仕事を任せ、自分はお坊さんになり、ぼう 乗久と名のっています。

じんべえ すがた えが 甚兵衛の姿を描いた肖像画が一枚残されています。じんべえ 甚兵衛が87歳のときの絵のようで、おだ  
 やかな顔をしています。「この絵を他人に見せるな」というメモが残っています。

じんべえ きやうほう 甚兵衛は享保15年（1730）9月20日に亡くなりました。92歳という、そのころでは考えら  
 れないほどのながい 長生きでした。じんべえ 甚兵衛は18歳でちちおや 父親を亡くし、その後つけかえ運動に取り組むよ  
 うになりました。こうずい 洪水はぜんぜんなくなるのに、人々は運動から遠ざかっていきました。  
 甚兵衛にとって、もっともつらく苦しい時期だったと思います。でも甚兵衛はあきらめていま  
 せんでした。そして、つけかえがじつげん 実現することになったのです。甚兵衛は決してヒーローでは  
 なかったと思います。コツコツとあきらめない人だったと思います。そして、その思いがかな  
 うことになったのです。